



凜として

長江プライド「当たり前のことを当たり前」

令和6年11月19日(火) 第4号(特別号)



文化祭を終えて ～頑張った量は必ず感動の量になる～



10月26日(土)に本校体育館において、長江中学校最後の「文化祭」が行われました。生徒会執行部をはじめ、主役である生徒一人一人が、素晴らしい文化祭にしようと、「**輪**～個性から団結へ つなげる思いやり～」をテーマにその準備や練習を含め頑張った結果、楽しくかつ感動的な一日を過ごすことができました。

生徒の皆さん、ありがとう。また、育友会役員の方々をはじめ、保護者の皆様のご理解・ご支援により円滑に運営できましたことに感謝します。本当にありがとうございました。

【閉会の挨拶から】

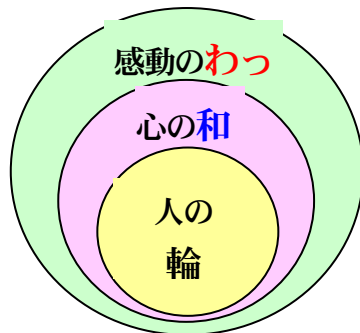
・・・文化は、英語で“culture (カルチャー)”と言いますが、その語源は「耕す」を意味するラテン語“colere (コレイ)”に由来し、初めは土地を耕す意味で用いられていました。文化にはいくつか定義が存在しますが、英語に入り、「心を耕すこと」といった精神的な所産を重視するようになり、そこから「教養」「文化」も意味するようになったとも言われています。そう考えたならば、今日の文化祭は、「**耕された心を表現する場**」と言えます。今日の文化祭では、凜とした所作、練習を経て成長した姿、真摯に取り組む姿などから生徒一人一人の“耕された心”を存分に見せていただきました。まさに「**三つのWA**」が生み出された感動的な一日でした。・・・

生徒会オープニング劇から始まり、英語発表、書道パフォーマンス、音楽部発表、学年発表(総合・合唱)、全校合唱、展示など、それぞれが創意工夫を凝らし、見ごたえのある内容でした。どの発表も素晴らしかったです。

各学年の歌声は“passion (パッション：情熱)”を感じられ、心揺さぶられるものでした。心地よい時間・空間を生徒、保護者、地域の方々、教職員と共有することができ、とても嬉しく思っています。

この日会場にあふれた感動を胸に、残りわずかなった長江中学校としての学校生活を仲間とのつながりを大切に、共に学び、さらに成長していきましょう。

《 三つの WA 》



「今年度の長江中学校における目指す生徒像」 Last spurt

- **高い志**を持ち**挑戦**する生徒
- 「**長江プライド**」(時を守る、場を清める、礼を正す)を**深化**させる生徒
- 新たな価値を“**そうぞう**(「想像」と「創造」)”する生徒
- 「**五事**」を正し、「**三つのWA**」を具現化する生徒

「Change」 「Challenge」



人を変えるのは難しいが、

自分を変えることは必ずできます。

自分自身を高め、

そして夢・志の実現に向け、挑戦し続けよう。

「**変わらない**」のではない。「**変わらない**」という決断を自分でしているだけだ。(アルフレッド・アドラー)

“自分自身を高めるために”

☆「**未来はどうなるのか**」ではなく

「**未来をどうしたいのか**」を考えよう！

☆「**たくさんの人と会い、本を読み、そして考える**」

ことを習慣にしよう！

☆「**物事の一面にとらわれず、**

様々な角度から物事を見る」よう意識しよう！



「**虫の目**」：虫のように近いところから**物事を注意深く見る** 視点

「**鳥の目**」：空を飛ぶ鳥のように**物事を高いところから俯瞰する** 視点

「**魚の目**」：魚が水の流れて泳ぐように**時流を読む** 視点

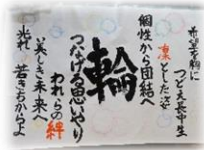
長江中学校最後の一年ということで、4月からここまで3年生が中心となり学校行事等学校生活を思い出深いものにしてくれました。**感謝！！**

上記の生徒像を目指し、最後まで駆け抜けていきましょう。

「**自分にきびしく、相手にはやさしく**」

いたわり、他人の痛みを感じる。それは本能ではないから訓練して身に付けるほかない。そうすることで、人は“**たのしい**”存在になっていく。

(『21世紀に生きる君たちへ』 司馬遼太郎)



【1年生】

失敗を怖れず逞しく、明るく頑張ろうとする1年生。努力の結果、本番まで日に日によくなりました。本校の伝統を受け継ぎ、誰もが楽しく学校生活を送れるよう、歌詞にあるように“心をなごませて みんなで語っていこう”“あなたの毎日が世界を創る”仲間とともに希望の明日へと着実に歩を進めていきましょう！

強き絆



【2年生】

個性的でエネルギーに溢れる2年生。力強い歌声でした。一生懸命歌う姿は気持ちのよいものでした。人は悩みながら、それらを乗り越えて大人になっていくのです。歌詞にあるように“何度も迷いながら たり着いた場所”“あなたがいて わたしがいて ふりかえれば 笑顔がある”仲間とともに成長していきましょう！



「おはよう」の挨拶は 相手を大切にする心くばり
ゴミを拾うのは 学級のみんなへの心くばり
机やイスを引きずらないのは 床への心くばり
そしてほんとに どれもこれも
自分を立派にするための
自分への心くばり

(有正省三)

「思いやり」「優しさ」「心くばり」

相手の人間性を尊重し、心と心をつなげるための“小さな勇氣”をみんなと自分のために発揮していこう。

【3年生】

4月からここまで、最高学年として下学年を引っ張ってきた3年生。学級の誇りをもち互いを称えながら切磋琢磨した練習成果を遺憾なく発揮してくれました。また、学級合唱は両クラスとも皆さんの3年間の思いが込められたもので心に響きました。本番にかける熱い思いは朝夕に聴こえる歌声から日々感じていました。

人生を生きることは楽しいことばかりではありませんが、歌詞にあるように、“荒れた青春の海は厳しいけれど 明日の岸边へと 夢の舟を進め”仲間と共に練習に汗した時間を いつまでも色あせない記憶 としてとどめ、自分を信じて 「前へ」。残りの中学校生活も心豊かな学びの中で日々真剣に取り組み、仲間とともに素敵な卒業式を迎えましょう。“強き絆”で！

強き絆

○ 自らの夢、目標を実現するための方法

①できるだけ具体的に考える

- ②それを紙に書く
- ③日付をつける
- ④人に言う。言いふらす。
- ⑤まず、人の夢や目標を応援する

考えたこと、思いついたこと、イメージしたことは必ず紙に書く。実は、考えただけでは、考えたことにはならない。「考え」って非常に抽象的なものなのである。考えたことを紙に書いたときに初めて、言語化され、概念化され、視覚化される。そのときに初めて、自分で扱えるようになる。また、書いたモノを目で見るのが刺激となり、さらに具体的に考えられるようになるであろう。こうして漠然としていた夢や目標が、どんどんと目に見える形で具体化されていく。

仏文学者としてはモラリストの著作を日本に紹介した。

「私は優という字を考えます。
これは優（すぐ）れるという字で、
優良可なんていうし、
優勝なんていうけど、

でももう1つ読み方があるでしょう？
優（やさ）しいとも讀みます。
そうしてこの字をよく見ると、
人偏（にんべん）に、憂ふと書いています。
人を憂（うれ）へる。

ひとの寂しさ侘しさ、つらさに敏感な事、
これが優しさであり、
また人間として一番優（すぐ）れている事じゃないかしら」

1946年4月30日付け 河(かわ)盛(もり)好
蔵(よしぞう)あて書簡より

河盛好蔵(1902-2000)：日本のフランス文学者・評論家。